
2007年3月期 決算説明会

石油資源開発株式会社

2007年5月14日

注意事項

本資料に掲載されている当社の現在の計画、見通し、戦略、その他歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しを示したものです。実際の業績は、さまざまな要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。

Copyright: 本資料に含まれるすべての内容に関する著作権は、当社が有しています。事前の承諾なく、これらの内容を複製もしくは転載することはお控えください。

※ 本資料において 1H, 2H はそれぞれ上期、下期を、(a) は実績数値を、(e) は予想数値を示しています。

本資料に関するお問い合わせ、その他IRに関するご質問は、以下にお願いいたします。

石油資源開発株式会社 広報IR部 IRグループ 電話03-6268-7111

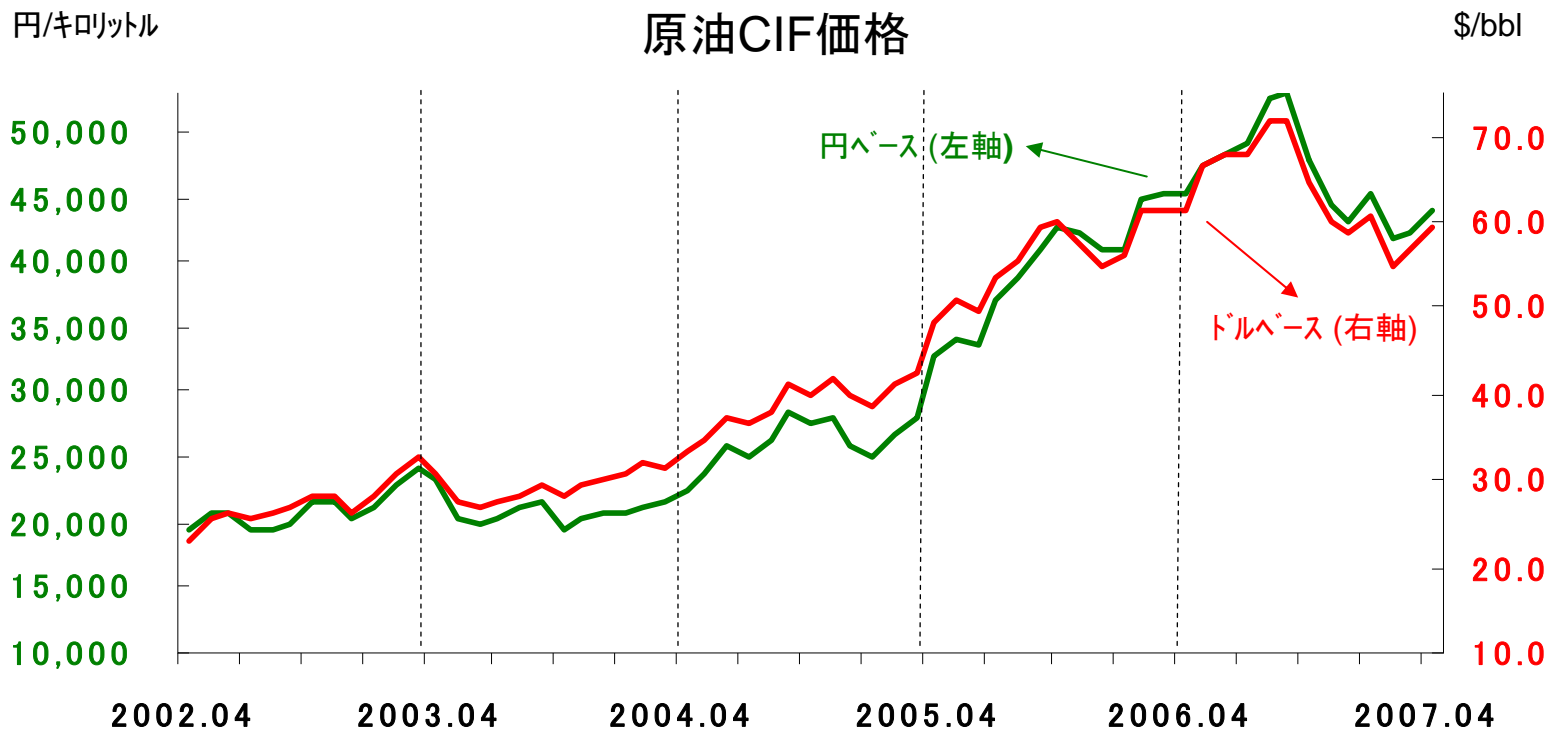
目次

1. 事業の概況
代表取締役社長 棚橋 祐治
2. 2007年3月期 決算の概要
常務取締役 佐藤 弘
3. 2008年3月期 業績見通しの概要
常務取締役 佐藤 弘

事業の概況

代表取締役社長 棚橋 祐治

原油価格の動き



- 2006年9月のCIF価格は、52,908円/kl (72.03ドル/bbl) まで上昇
- 2007年4月上旬のCIF価格(速報)は、44,025円/kl (59.49ドル/bbl)

07/3期実績 および 08/3期見通し概要

単位:百万円

	2006/3 (a)	2007/3 (a)	2008/3 (e)	07/3-08/3 増減
売上高	138,796	170,018	155,760	△ 14,258
営業利益	27,018	29,719	11,964	△ 17,755
経常利益	31,190	34,705	17,658	△ 17,046
当期純利益	20,216	20,982	13,293	△ 7,689

07/3期 実績

- 原油CIF価格は、前期比+16%上昇し\$63.21/bbl
- 原油、ビチューメンの増収が収益に寄与
- 売上高、営業利益、経常利益、当期純利益は最高を更新

08/3期 予想

- 原油CIF価格前提は \$55.00/bbl (前期比13%下落)
- 原油は新南海石油開発(株)の生産減および前提油価下落により減収。天然ガス販売は増加を見込むが、探鉱費の大幅な増加もあり、減収減益

08/3期 事業計画の概要

➤ 国内探鉱

- 経営基盤である国内ガス埋蔵量の拡大に注力
- 「既存油ガス田周辺でのフィールドグロース」と「大規模埋蔵量追加を目指した探鉱」を効率的に組み合わせて実施

➤ ガス事業

- 天然ガス需要の拡大に応じるため、供給能力のさらなる拡充を図る
- 北海道での増販に向けた勇払鉱場の設備増強
- 新潟県内油ガス田の生産設備増強
- 白石・郡山間ガスパイプライン開通に伴う拡販
- 仙台・いわき間海底ガスパイプラインの実現に向けた準備作業の継続

➤ 海外事業

- 既存プロジェクトでは、探鉱作業を本格化
- 重点地域において、引き続きポートフォリオバランスに配慮した事業発掘・新規権益の取得を目指す

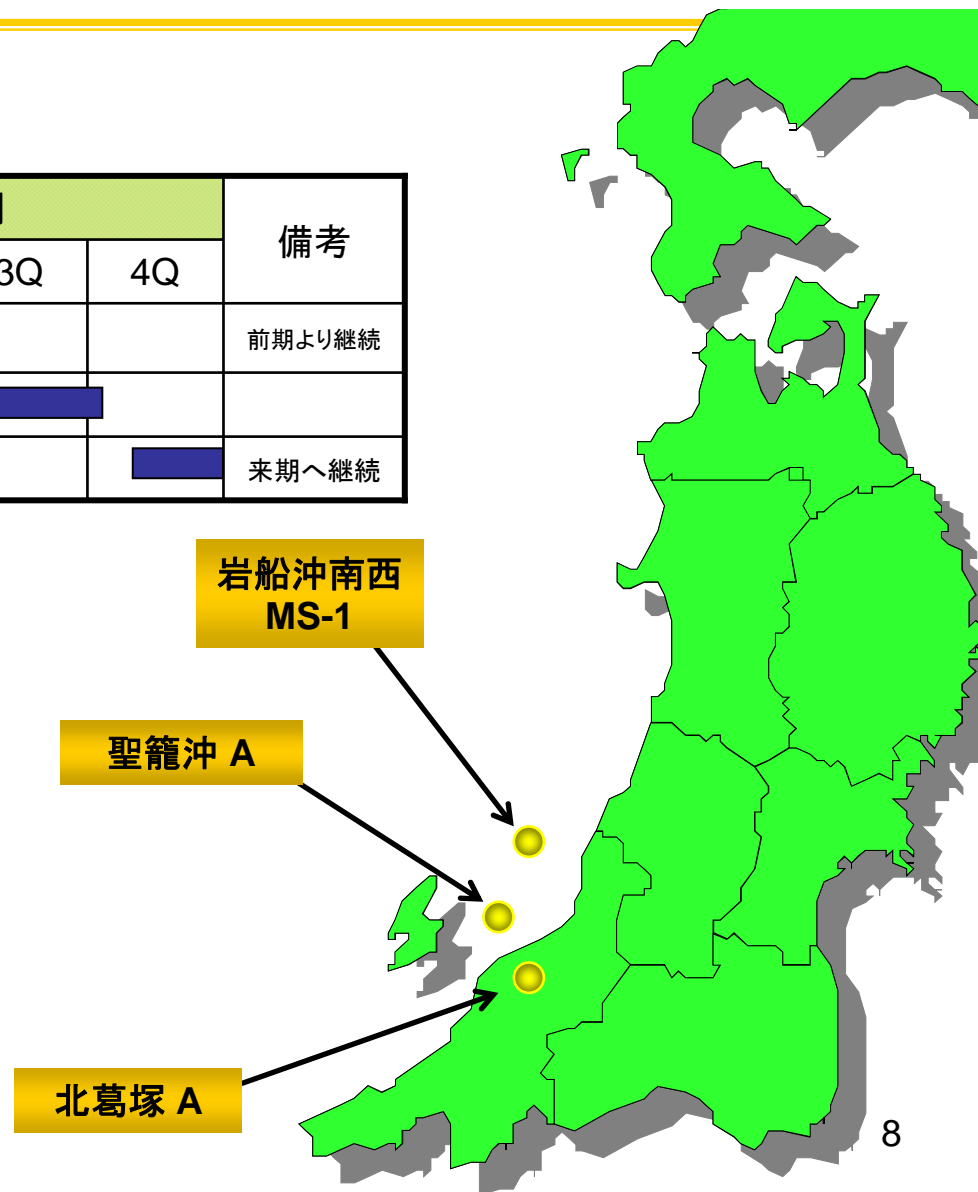
08/3期 国内探鉱計画

試掘井掘削スケジュール

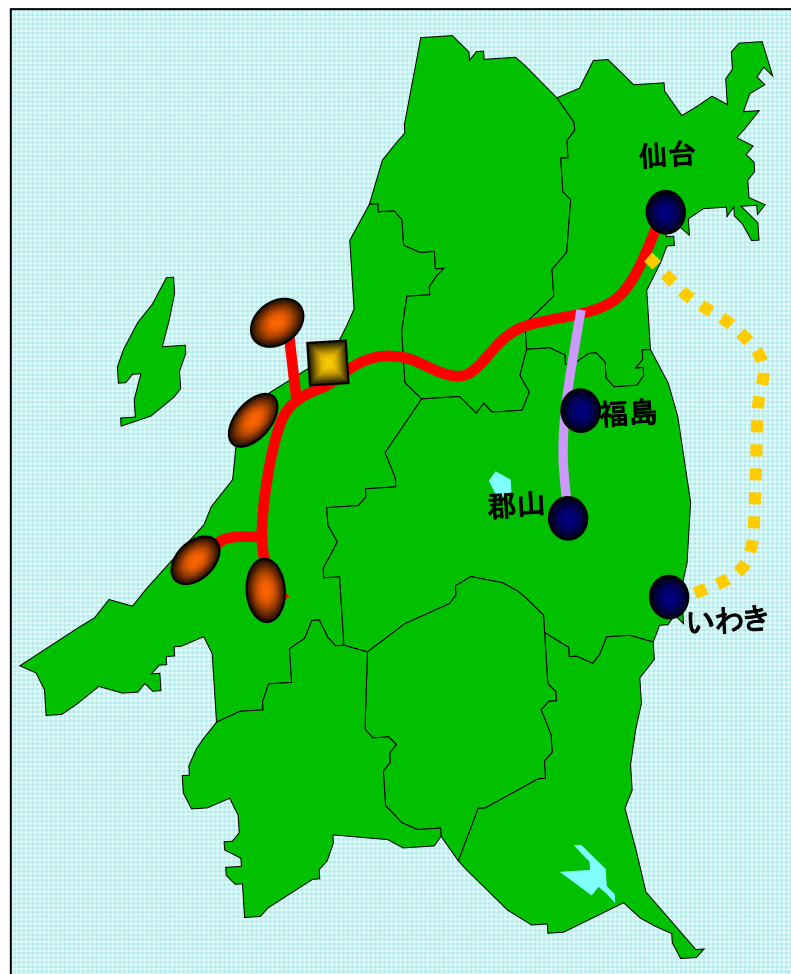
	掘削 深度	08/3期				備考
		1Q	2Q	3Q	4Q	
岩船沖南西MS-1	3,748m	■				前期より継続
北葛塚 A	3,700m			■		
聖籠沖 A	4,300m				■	来期へ継続

物理探鉱計画

- 2D震探：秋田、新潟で計47km
- 3D震探：勇払と新潟沖で計360km²
(前期からの継続140km²含む)



ガス事業：パイプライン建設の概況



● 新潟県内主要ガス田 ■ LNG受入基地

- ✓ 白石・郡山間ガスパイプラインが2007年3月より運用開始
- ✓ 仙台・いわき間海底ガスパイプライン計画
 - 延長：約160km、口径：20-24インチ(508-609mm)、設計圧力：21MPa
 - 予定工期：2008年建設着工、2011年初頭操業開始
 - 今期の取組み：建設計画実現に向け、本格調査を実施



建設中の白石・郡山間ガスパイプライン

08/3期 設備投資計画

単位：億円

	07/3期 (a)	08/3期 (e)
設備投資額*	317	494
減価償却費	149	177

天然ガス需要増に伴う
生産設備の増強

*計上ベース

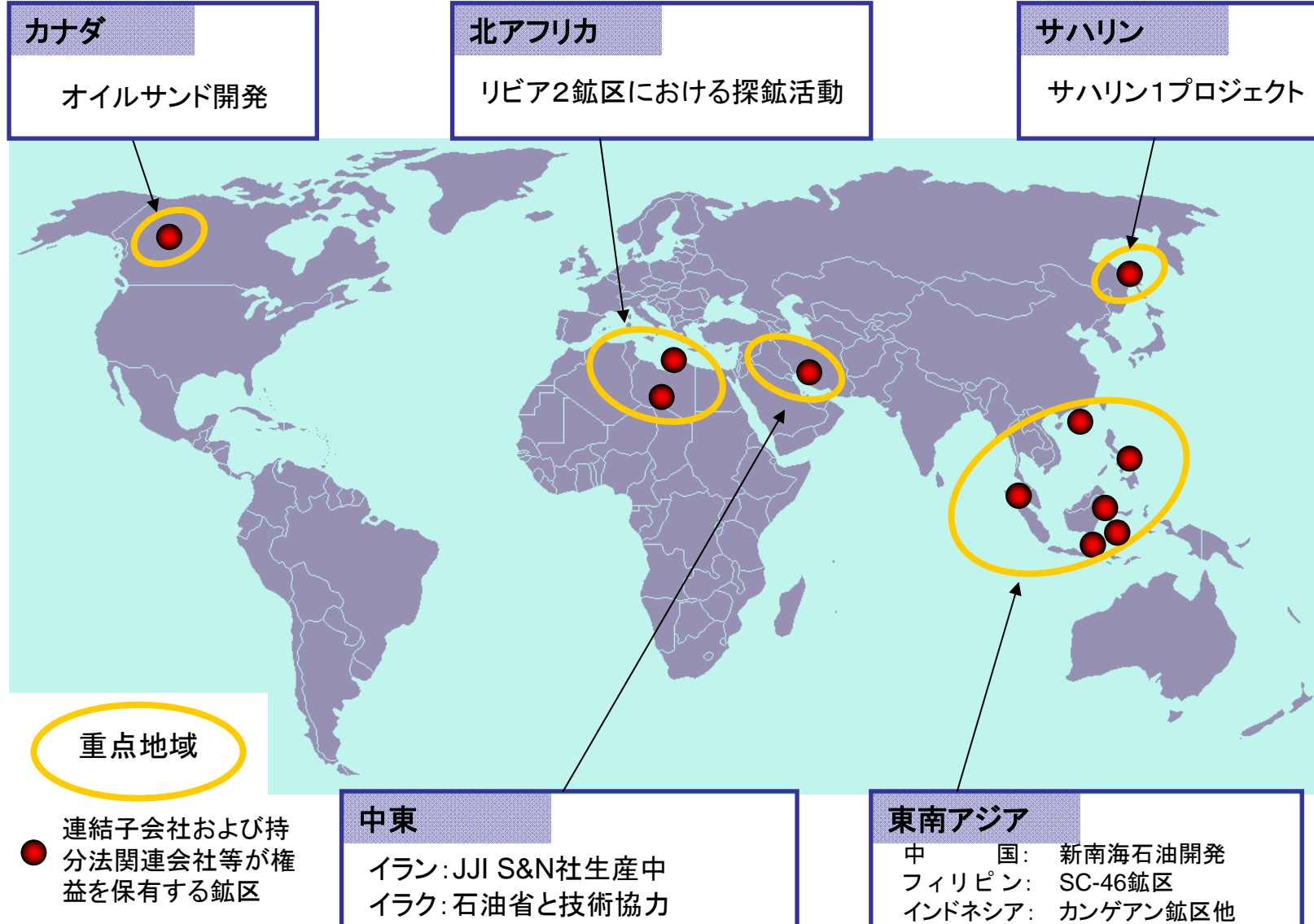
主な設備投資項目

(注)

	1Q	2Q	3Q	4Q	備考
採掘井 掘削工事 (北海道)		■			
採掘井 掘削工事 (新潟県)	■		■	■	来期継続
勇払鉱場 生産設備増強	■				来期継続
勇払LNG 第2系列 増設	■				
新潟県内油ガス田 生産設備増強	■				来期継続

(注) 他に、カナダのオイルサンド事業における、目標生産レート維持のための採掘井掘削工事など

海外事業：重点地域での取組み



海外事業：08/3期 探鉱計画

国名	鉱区名	権益比率	事業会社名	08/3期 作業概要
リビア	40-3/4	42%	ジャペックスリビア	2D、3D地震探鉱（海上）
リビア	176-4	100%	ジャペックスリビア	2D地震探鉱（陸上）
フィリピン	SC-46	65%	ジャペックスフィリピン	試掘井 1 坑掘削
インドネシア	Buton	40%	ジャペックスブトン	2D地震探鉱等
カナダ	Hangingstone West	75%	Japan Canada Oil Sands Ltd. (JACOS)	3D地震探鉱、評価井掘削

（注）上記のすべての鉱区において、当社がオペレーター

海外事業現況 (1) : インドネシア

ジャペックス Block A

出資比率
100%

- スマトラ島A鉱区に16.66%の
権益を保有
- PS契約:2011年まで

エネルギー メガ プラタマ社 (EMPI)

出資比率
25% *

- 2007年3月、当社はエネルギー メガ プラタマ社 (EMPI)
への資本参加により、カンゲアン鉱区の権益25%の取得
に合意
- PS契約:2030年まで
- 原油換算約1万bbl/dを生産 (2006年平均)

ユニバースガスアンドオイル

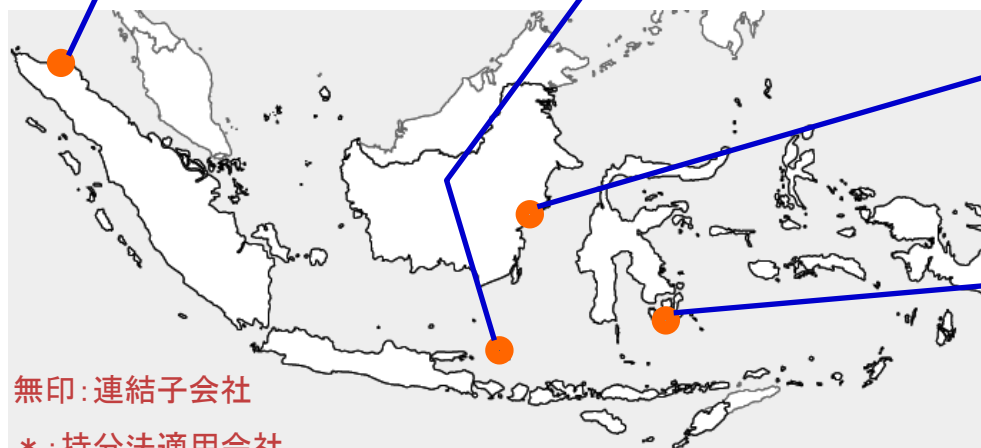
出資比率
33% *

- カリマンタン島サンガサンガ鉱区に
4.375%の権益を保有
- PS契約:2018年まで
- 生産中

ジャペックスブトン

出資比率
100%

- 英社他と共同でブトン鉱区を落札(権
益比率40%)
- PS契約:2010年まで(第1次探鉱期
間、以後延長可)



無印:連結子会社

* :持分法適用会社

海外事業現況 (2) : 中国、フィリピン

新南海石油開発

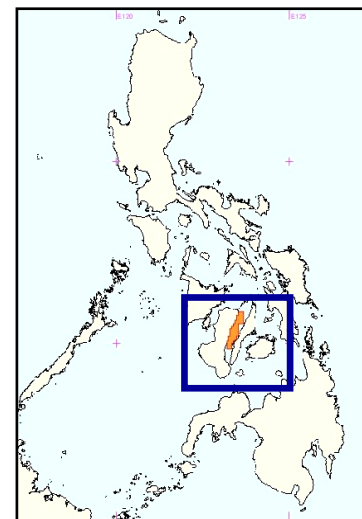
- 連結子会社(当社82%出資)
- 権益比率: 30%
- Lufeng 13-1油田は、06年12月現在、11,000bbl/d で生産中
- 洋上生産施設の定修を予定



Lufeng(陸豊)13-1 プラットフォーム

ジャペックスフィリピン

- 連結子会社(当社100%出資)
- セブ/ネグロス島間海域「SC-46鉱区」にて探鉱作業中
- 権益比率: 65%(オペレーター)
- 試掘井 1 坑掘削予定



海外事業現況 (3) : リビア、イラン

ジャペックスリビア

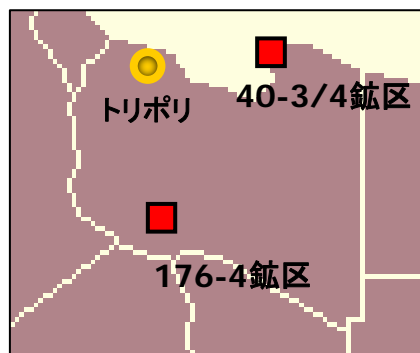
- 連結子会社（当社100%出資）

海上 40-3/4 鉱区 (地中海沿岸部)

- 権益比率: 42% (オペレーター)
- 07年3月、3D地震探鉱作業を開始。今後、2D地震探鉱作業を実施の予定

陸上 176-4 鉱区 (ムルズク地域)

- 権益比率: 100% (オペレーター)
- 07年2月、2D地震探鉱作業を開始



JJI S&N B.V.

- 持分法適用会社（当社41.67%出資）
- ペルシア湾 Soroosh & Nowrooz 油田開発に係る Buy Back 契約に基づき、2005年7月に19万 bbl/d の生産を達成。現在コストと報酬を回収中。
- 権益比率: 20%
- オペレーター: Royal Dutch Shell



海外事業現況 (4) : イラク、サハリン

イラク石油省との技術協力

- ✓ 2005年3月に技術協力覚書を締結
- ✓ 今期で3年目(2008年3月まで)
- ✓ 今期計画
 - イラク国内の油田に係る評価作業
 - 原油軽質化技術および増産手段の検討
 - 三次元地震探鉱に関する技術支援
 - 石油開発に係る教育訓練



来日中のシャハリスタニ石油相との面談(2007年4月)

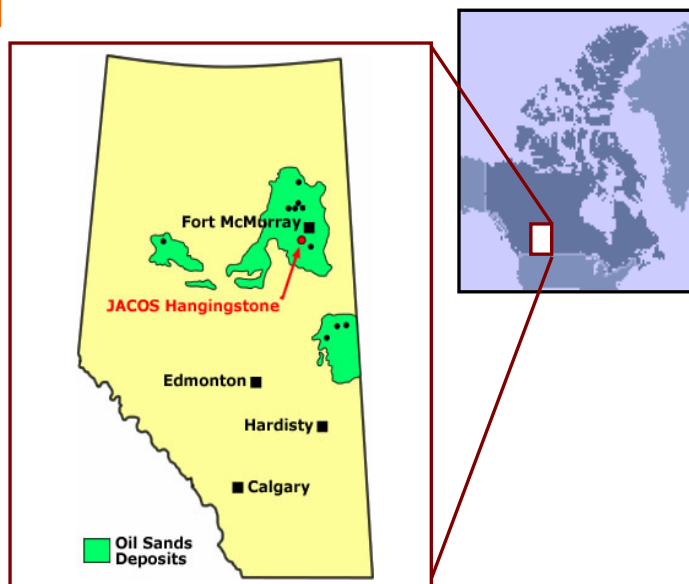
サハリン石油ガス開発 (SODECO)

- ✓ 権益比率: 30%
- ✓ SODECOへの出資比率: 14.46%
- ✓ 2006年10月 原油輸出開始
- ✓ 2007年2月 目標生産量(25万bbl/d)到達



チャイウォ海洋プラットフォーム (出典:エクソンモービル)

海外事業現況 (5) : カナダ



カナダオイルサンド(株)

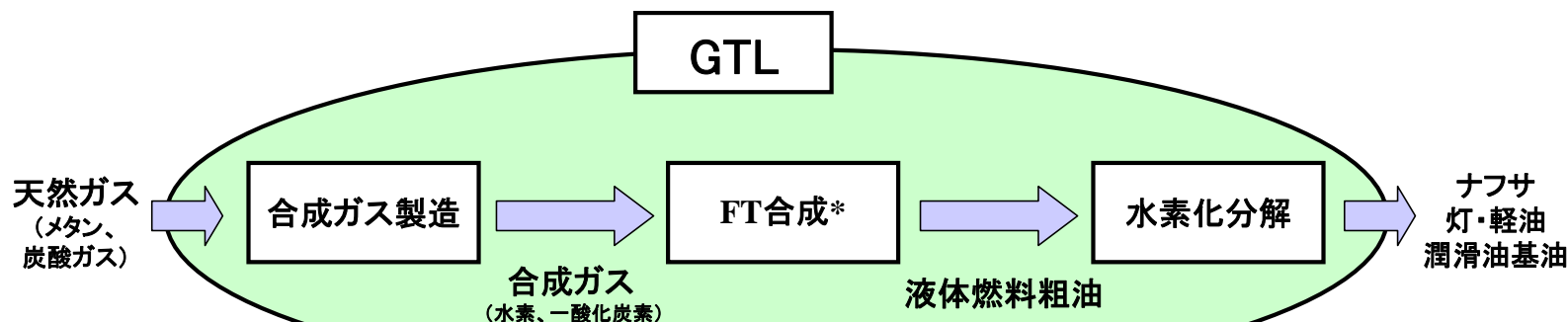
- 連結子会社(当社86.64%出資)
- 100%出資現法 Japan Canada Oil Sands Ltd. (JACOS) を通じてオイルサンド開発
- 生産鉱区: Hangingstone 3.75 セクション (権益比率: 100%)
- 約 8,000 bbl/d で生産中
- 採掘井の追加掘削
- 未開発鉱区の詳細な地質評価作業を継続 (2006年末~2009年)



JACOS ビチューメン処理設備

GTL技術実用化への取組み

- ✓ 二酸化炭素(CO₂)を含む天然ガスを利用できる独自のGTL技術の実証研究に参加
- ✓ 2006年: 「日本GTL技術研究組合」設立
 2007～2008年: 500bbl/d規模の実証プラント建設
 2009～2010年: 実証生産により、GTL技術の確立・商業規模へのスケールアップを目指す
- ✓ CO₂を多く含むために未開発となっているガス田へ適用 → 今後の海外におけるガス田開発への参入や鉱区獲得機会の拡大に期待



* FT合成: フィッシャー・トロプシュ合成

環境保全・社会貢献活動

森林整備事業

- 北海道 苫小牧市
 - － せきゆかいはつ モラップの森
 - － 植樹期間: 2006 年秋から3年間
- 秋田県 由利本荘市
 - － せきゆかいはつ ゆりの森
 - － 植樹期間: 2005 年秋から3年間
- 新潟県 北蒲原郡聖籠町
 - － せきゆかいはつ 千年松の森
 - － 植樹期間: 2007 年4 月から3年間



秋田県における植樹祭

寄附講座

- 東京大学
 - － フロンティアエネルギー開発工学(JAPEX) 寄付講座
 - － 東京大学大学院工学系研究科地球システム工学専攻
 - － 2007 年4 月～2012 年3 月
 - － オイルサンド・重質油等の非在来型石油資源の低環境負荷型生産手法ほか
- 京都大学
 - － エネルギー資源開発工学(JAPEX)講座
 - － 京都大学大学院工学研究科
 - － 2007 年5 月～2012 年3 月
 - － 石油貯留層の詳細な記述に必要となる地下の可視化技術ほか

2007年3月期 決算の概要

常務取締役 佐藤 弘

07/3期 決算サマリー

百万円	06/3月期 通期実績	07/3月期		
		当初見通し 06/5/15 公表	修正見通し 06/11/14 公表	実績 07/5/14 発表
売上高	138,796	123,910	157,685	170,018
営業利益	27,018	20,395	23,874	29,719
経常利益	31,190	24,920	28,830	34,705
当期純利益	20,216	17,242	19,541	20,982

当初見通し→修正見通し

- ✓ 原油CIF価格見通しを上方修正
(\$60/bblから\$62.28/bbl)
- ✓ 為替レートを円安方向に修正
(110.00円/\$から115.20円/\$)
- ✓ サハリン1プロジェクトからの原油買入販売に伴う売上高増加

修正見通し→実績

- ✓ 原油CIF価格は\$63.21/bbl (修正見通し比+\$0.93/bbl)
- ✓ 為替は116.89円/\$ (修正見通し比 +1.69円/\$)
- ✓ ビチューメン価格高止まりでJACOS増収増益
- ✓ 探鉱費13億円減少、販管費 8億円減少
- ✓ 修正見通し比で、売上高は7.8%、営業利益は24.5%、経常利益は20.3%、当期純利益は7.3%の増加

07/3 通期 原油販売実績(前期比)

	06/3期		07/3期		増減	
	中間(a)	通期 (a)	中間(a)	通期 (a)	中間	通期
原油販売量 (千kl)	913	1,934	930	2,266	+17	+331
売上高 (百万円)	28,823	67,711	37,226	94,709	+8,403	+26,998
原油CIF価格 (\$/bbl)	49.61	54.10	65.82	63.21	+16.21	+9.11
為替(Yen/\$)	107.99	112.44	115.42	116.89	+7.43	+4.45

権益原油の内訳	06/3期		07/3期		増減	
	中間(a)	通期 (a)	中間 (a)	通期 (a)	中間	通期
国産原油販売量 (千kl)	275	590	258	558	△17	△31
売上高 (百万円)	9,844	23,103	12,494	25,530	+2,649	+2,426
海外子会社原油販売量 (千kl)	84	217	96	194	+11	△22
売上高 (百万円)	3,024	8,575	4,806	9,259	+1,782	+683
ビチューメン販売量(千kl)	226	448	229	444	+3	△3
売上高 (百万円)	2,231	6,526	4,410	9,777	+2,178	+3,251

本資料における「国産原油」の販売量及び売上高は、買入原油を除いております。また、「海外子会社原油」の販売量及び売上高は、海外連結子会社3社(新南海石油開発㈱、ジャワ石油㈱、Japex (U.S) Corp)の合計数値を記載しています。

07/3 通期 ガス販売実績(前期比)

	06/3期		07/3期		増減	
	中間 (a)	通期 (a)	中間 (a)	通期 (a)	中間	通期
ガス販売量 (百万m ³)	622	1,413	614	1,411	△7	△2
売上高 (百万円)	18,503	43,539	18,893	44,950	+389	+1,410
国産ガス販売量 (百万m ³)	514	1,145	491	1,099	△23	△45
売上高 (百万円)	15,578	35,998	15,389	35,577	△188	△420

本資料における「国産ガス」の販売量及び売上高は、買入ガスを除く数値を記載しています。

➤都市ガス会社向け増販

➤電力向け販売の減少



数量横ばい (売上高は3%増)

07/3期 損益変動要因(前期比)

単位:百万円

	06/3月期 通期 (a)	07/3月期 通期 (a)	増減 前期比
売上高	138,796	170,018	+31,222
売上総利益	61,362	65,844	+4,481
探鉱費	9,677	8,178	△1,499
販管費	24,666	27,946	+3,279
営業利益	27,018	29,719	+2,701
営業外損益	4,172	4,985	+813
経常利益	31,190	34,705	+3,514
特別損益	△24	△45	△20
法人税等	9,294	11,909	+2,615
少数株主利益	1,655	1,768	+112
当期純利益	20,216	20,982	+765

国産原油販売 +24億円
 国産ガス販売 △4億円
 原油ガス売上原価増 △9億円
 海外連結子会社 +28億円
 国内連結子会社(JPO除く) +5億円

国内探鉱費減 △29億円
 海外探鉱費増 +14億円

2008年3月期 業績見通しの概要

常務取締役 佐藤 弘

08/3期 業績見通し

単位: 百万円

	08/3期 1H (e)	08/3期 2H (e)	08/3期 通期 (e)
売上高	73,426	82,334	155,760
売上総利益	24,140	31,613	55,753
探鉱費	5,578	9,684	15,262
販管費	13,967	14,560	28,527
営業利益	4,595	7,369	11,964
営業外損益	3,967	1,728	5,694
経常利益	8,561	9,097	17,658
特別損益	△78	△47	△125
法人税等	1,905	2,129	4,034
少数株主利益	130	76	206
当期純利益	6,448	6,845	13,293

原油CIF価格、為替の前提

	1H (e)	2H (e)	通期 (e)
原油CIF価格 \$/bbl	55.00	55.00	55.00
為替 ¥/\$	115.00	115.00	115.00

事業部門別売上構成

単位: 百万円

	1H (e)	2H (e)	通期 (e)
原油・天然ガス	66,449	73,244	139,693
請負事業	790	3,075	3,865
その他事業	6,187	6,015	12,202

探鉱費の内訳

単位: 百万円

	1H (e)	2H (e)	通期 (e)
国内探鉱費	2,071	5,821	7,891
海外探鉱費	3,507	3,863	7,371

08/3期業績見通しー前期比ポイント

単位:百万円

	07/3期		08/3期		増減	
	中間(a)	通期(a)	中間(e)	通期(e)	中間	通期
売上高	67,138	170,018	73,426	155,760	+6,286	△14,258
営業利益	12,528	29,719	4,595	11,964	△7,933	△17,755
経常利益	15,750	34,705	8,561	17,658	△7,189	△17,046
当期純利益	10,654	20,982	6,448	13,293	△4,206	△7,689

経常利益の主な減益要因

単位:億円

要因	JAPEX+ JPO*	新南海 石油開発	JACOS	その他	計
原油価格低下による売上高の減収	△38	△10	△13		△61
原油販売量の増減による売上高への影響	+23	△30	△6	△6	△19
探鉱費増加による減益	△20		△10	△41	△70
その他	△2	△3	△5	△9	△19
経常利益	△37	△43	△34	△56	△170

* JPO=日本海洋石油資源開発

08/3期 原油販売見通し

	07/3期		08/3期		増減	
	中間(a)	通期(a)	中間(e)	通期(e)	中間	通期
原油販売量 (千kl)	930	2,266	1,121	2,237	+190	△29
売上高 (百万円)	37,226	94,709	40,272	80,341	3,046	△14,367
原油CIF価格 (\$/bbl)	65.82	63.21	55.00	55.00	△10.82	△8.21
為替 (Yen/\$)	115.42	116.89	115.00	115.00	△0.42	△1.89

権益原油の内訳	07/3期		08/3期		増減	
	中間(a)	通期(a)	中間(e)	通期(e)	中間	通期
国産原油販売量 (千kl)	258	558	264	608	+6	+50
売上高 (百万円)	12,494	25,530	10,486	24,018	△2,007	△1,512
海外子会社原油販売量 (千kl)	96	194	72	121	△24	△72
売上高 (百万円)	4,806	9,259	2,697	4,631	△2,109	△4,627
ビチューメン販売量(千kl)	229	444	196	417	△33	△27
売上高 (百万円)	4,410	9,777	3,445	7,878	△965	△1,898

本資料における「国産原油」の販売量及び売上高は、買入原油を除いております。また、「海外子会社原油」の販売量及び売上高は、海外連結子会社3社(新南海石油開発株、ジャワ石油株、Japex (U.S) Corp)の合計数値を記載しています。

08/3期 天然ガス販売見通し

	07/3期		08/3期		増減	
	中間(a)	通期(a)	中間(e)	通期(e)	中間	通期
ガス販売量 (百万m ³)	614	1,411	691	1,522	+76	+111
売上高 (百万円)	18,893	44,949	21,590	49,236	+2,697	+4,287
国産ガス販売量 (百万m ³)	491	1,099	518	1,156	+27	+57
売上高 (百万円)	15,389	35,577	16,384	37,600	+994	+2,023

本資料における「国産ガス」の販売量及び売上高は、買入ガスを除く数値を記載しています。

- ▶ 白石・郡山間ガスパイプライン開通に伴う販売の増加を見込む
- ▶ 北海道および新潟県での都市ガス向けおよび産業用需要家向け増販を見込む



販売量は前年比111百万m³増の1,522百万m³を見込む

08/3期 損益変動要因(前期比)

単位:百万円

	07/3月期 通期 (a)	08/3月期 通期 (e)	増減 前期比
売上高	170,018	155,760	△14,258
売上総利益	65,844	55,753	△10,091
探鉱費	8,178	15,262	+7,083
販管費	27,946	28,527	+580
営業利益	29,719	11,964	△17,755
営業外損益	4,985	5,694	+709
経常利益	34,705	17,658	△17,046
特別損益	△45	△125	△80
法人税等	11,909	4,034	△7,875
少数株主利益	1,768	206	△1,562
当期純利益	20,982	13,293	△7,689

国産原油販売 △15億円
 国産ガス販売 +20億円
 原油ガス売上原価増 △23億円
 海外連結子会社 △76億円
 国内連結子会社(JPO除く)
 △5億円

国内探鉱費増 +20億円
 海外探鉱費増 +50億円

油価及び為替の前提 及び 収益への影響

	06/3期	07/3期	08/3期	増減 前期比
	通期 (a)	通期 (a)	通期 (e)	
原油CIF価格 (\$/bbl)	54.10	63.21	55.00	△ 8.21
為替 (Yen/\$)	112.44	116.89	115.00	△ 1.89

原油価格前提 = 55 USD/bbl

1\$/bbl の油価上昇による
利益増加額は ……

営業利益	400 百万円
経常利益	400 百万円
当期純利益	260 百万円

注

ピチューメンの販売価格は通常の原油価格とは異なる動きを示すことが多いため、オイルサンド事業に関する油価変動の影響は、ここに示した数値には含まれていません。

為替前提 = 115 円/USD

5 円/\$ の円安による
利益増加額は ……

営業利益	400 百万円
経常利益	400 百万円
当期純利益	200 百万円

注

為替変動の影響に関して、左記に示したものの以外に、当社及び連結子会社の保有する外貨建金銭債権債務（ヘッジ会計適用分を除く）の為替レート換算差額が発生します（評価差額を営業外損益に計上）。

(注) 上記は参考値であり、実際の利益は原油価格や為替以外の様々な要因によっても影響されます。